

今回の記録的大雪を振り返る

市大雪災害対策本部と排雪5事業者との間に立ち、調整役を担っていただいた株式会社上越商会の高沢一弘さんに、今回の除雪対応の舞台裏についてお話を聞きました。



高沢一弘さん(右)と、今回初めて一斉排雪を経験した若きオペレーター・佐藤寛歩さん(左)。

「昨冬の小雪から一転、1月7日から11日にかけての記録的な降雪により、道路除雪に加えての一斉屋根雪下ろし・排雪となりました。今回の大雪をどのように振り返りますか。」

高沢さん 降雪のピーク時には道路除雪が追いつかず、朝出ても昼も夜も出なければいけないような状況で、従業員は家に帰らずに会社に泊まり込みで作業を続けていました。家に帰れた人も、今度はお勤できなくなってしまう、会社で迎えに行かなどしてできる限り人員を確保しましたが、それでも足りないところは同じ人が2日、3日と連続して出勤していました。

「仮眠なども取られていたんでしょうが、体力的にも相当厳しかったことと思います。」

高沢さん 余剰人員が大勢いて、何班でもローテーションを組んで回せばいいんですが、除雪路線が多く、ローテーションが組めないため、そこで使う機械はその人専用になってしまうのが実際のところなんです。

また、雪は最後に雪捨て場へ持っていくんですが、ピーク時には24時間で1メートルも積もるような状況でしたから、雪捨て場までの道付けや、そこに至る幹線道路の除雪も進みませんでしたので、本当に困りました。

「そうした中、13日には一斉屋根雪下ろし・排雪の実施が決まりました。」

高沢さん すでに道路除雪がひっ迫

していましたので、屋根雪の状況を見ながら、「いつ声が掛かるか」と心配していました。いよいよ話が立ち上がったときには、やらなくてはいけないな、という思いでした。その時点で屋根雪が相当の量でしたので、排雪にどれくらいの日数が掛かるか、見当が付きませんでした。

かき分けていくだけの道路除雪と違って、狭い町なかでの排雪は誰にでもできる作業ではありません。何せ9年振りでしたので、経験者の多くはすでに退職していますし、若い従業員は経験がないので分かりません。ですので、準備段階では作業の中心となる、排雪の経験のあるオペレーターの人選や機械の配置など、十分な打ち合わせを行いました。

「排雪作業を拝見しましたが、狭い道路でロータリー除雪車の横や後ろにぴったりとダンプを付けて次々に雪を積んでいく様子を見て、技術の高さと段取りの良さに感心しました。」

高沢さん 今回の排雪は、9年前の排雪の経験がある5社で行いました。そうしたノウハウは各社持っていますし、どんな機械が会社にあっても、それをどう組み合わせる作業を行うか、ということがポイントでした。ロータリーを使えば作業は早いですが、それに加えて、オペレーターとダンプの運転手が息を合わせて作業をするということが重要です。

「町なかでの排雪の技術は、どの

ように習熟されるのですか。」

高沢さん 通常の道路除雪は毎日出ますから慣れてきますし、幅員の広い道路の排雪であればそれほど問題はないんですが、一斉排雪のような狭い道路での排雪は練習もできません。実地での経験が何よりも大切です。今回も、ベテランのオペレーター

が「そうじゃなくて、こうやった方がきれいになるし早いぞ」と現地で若い従業員に教えていただきましたが、そうやって指導してもらわないと、技術は伝えていくことができません。

この町に住んでいれば、今後もし一斉屋根雪下ろしは避けては通れませんが、次の排雪に備えてオペレーターの若返りを図って、技術も高めていく、そこが一番の課題ですね。

「そうした課題もある中、今回の排雪は、実質25日から27日までのわずか3日間です。」

高沢さん 一斉屋根雪下ろし当日までに降雪が落ち着いて、屋根雪の嵩が減ったということもありますが、少しでも早く道路を開けようと、担当する路線が早く終わった業者からは、まだ終わっていない路線にヘルプに入ってもらうなど、5社の間でうまく連携が取れたと思います。

何よりも、今回の排雪では事故が無く、本当に良かったです。私はそれを誇りに思いますし、排雪にあたった皆さんからも同じように思ってもらいたいです。みんな超一流です。